

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 芸術 科目 書道Ⅱ

教 科： 芸術 科 目： 書道Ⅱ 単位数： 2 単位
対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 4 組
教科担当者： （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ）
使用教科書： （ 教育図書 書Ⅱ ）
教科 芸術 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】 芸術に関する教科の特質を理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に着けようとする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 書道Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の基本的な技術を身に着けるとともに、表現するうえで適切な技法を身に着けていく。書道Ⅰで身につけたことをもとにして、さらに幅広く技術を身につけていく。	書の歴史的背景、書家の人物像にも思いを馳せ、筆法の説明も自らの言葉でできるように、臨書、鑑賞を重ねていく。	自主的に創意工夫を重ねていく学習態度を身に着けていく。表現する技術と感性を自ら高めていくことで、生涯にわたって、書、芸術を愛好する心情を育んでいきたい。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
			漢 仮	漢	仮							
1 学 期	段取りを組んで取り組む力 課題を見つける力 篆書の学習 篆書の古典を臨書する。	篆書の基本的な筆法、逆筆、蔵鋒の書き方を身につける。		○		○	逆筆、蔵鋒を書けるようにする。また、書けるように練習に励む。		○	○	○	8
	段取りを組んで取り組む力 課題を見つける力 隷書の学習 隷書の古典を臨書する。	隷書の基本的な筆法、逆筆及び波磔を身につける。		○		○	逆筆、波磔を書けるようにすること。また、書けるように練習に励むこと。		○	○	○	12
	段取りを組んで取り組む力 課題を見つける力 草書の学習 草書の古典の臨書をする。	草書の略し方になれて、書の流れの存在を意識する。		○		○	草書の造形の特性を知ることができるように、練習に励むこと。		○	○	○	12
	課題を解決する力 課題を見つける力 様々な変化へ対応する力 創作の導入	創作活動の基本を学ぶ。		○		○	作品制作の基礎を学び、自ら創意工夫をしていく態度を期待したい。		○	○	○	12
2 学 期	コミュニケーション能力 一緒に社会を作る力 作品展示	文化祭に向けた作品展示 クラスメートまたは、グループで協力して作業を進めること。				○	互いの作品への鑑賞することは、展示をしていく中で大切にしていく。		○	○	○	4
	課題を解決する力 課題を見つける力 様々な変化へ対応する力 行書の学習	集王聖教序を臨書して学びながら、行書の基本を身につけていく。		○		○	丁寧に手本を読み解くことと、文字の構造から、筆の運びを学ぶ。					10
3 学 期	課題を解決する力 課題を見つける力 様々な変化へ対応する力 仮名の学習	日本の仮名の古典を学びながら、変体仮名、連綿の構造などを知る。日本の美の一つに挙げられる仮名に親しむ。				○	漢字を字源とする仮名の特徴を知っていく。仮名遣いを通して、日本の美を学ぶ。					12
	課題を解決する力 課題を見つける力 様々な変化へ対応する力 漢字かな交じりの学習	漢字かな交じりの書で創作の基本を学ぶ。	○			○	各自で好きな文章などを作品に作り上げる。言葉の面白さを味わう。					合計 70

高等学校 令和5年度（1 学年用） 教科 芸術 科目 書道 I

教 科： 芸術 科 目： 書道 I 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 4 組

教科担当者： （ 1～4 組： ）

使用教科書： （ 教育図書 書 1 ）

の目標：

芸術に関する教科の特質を理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に着けようとする。

創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の基本的な技術を身に着けるとともに、表現するうえで適切な技法を身に着けていく。	書の歴史的背景、書家の人物像にも思いを馳せ、筆法の説明も自らの言葉でできるように、臨書、鑑賞を重ねていく。	自主的に創意工夫を重ねていく学習態度を身に着けていく。表現する技術と感性を自ら高めていくことで、生涯にわたって、書、芸術を愛好する心情を育てていきたい。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
			漢 仮	漢	仮							
1 学 期	課題を見つける力 書道の基本	書道用具の正しい扱い方を学ぶ。 また、芸術としての書に触れる。 書の鑑賞の導入。		○		○	書道用具の扱い方にも心を配る態度。鑑賞する態度を知ること。		○	○	○	4
	段取りを組んで取り組む力 課題を見つける力 楷書の学習	九成宮禮泉銘 筆法を知る。実際に書くことは勿論のこと、言葉にして説明もできるようになってほしい。		○		○	筆法を理解していること。臨書するためにじっくりとお手本に向き合うこと。		○	○	○	10
	段取りを組んで取り組む力 課題を見つける力 楷書の学習	孔子廟堂碑 筆法を知る。九成宮禮泉銘との比較してそれぞれの特徴を理解していく。		○		○	九成宮禮泉銘と孔子廟堂碑との違いを意識して、臨書にのぞむこと。		○	○	○	10
	課題を解決する力 様々な変化へ対応する力 書の作品制作の導入	孔子廟堂碑 筆法を知る。九成宮禮泉銘との比較してそれぞれの特徴を理解していく。		○		○	作品制作の基礎を学び、自ら創意工夫をしていく態度を期待したい。		○	○	○	10
2 学 期	コミュニケーション能力 一緒に社会を作る力 作品展示	文化祭に向けた作品展示 クラスメートまたは、グループで協力して作業を進めること。				○	互いの作品への鑑賞することは、展示をしていく中で大切にしていく。		○	○	○	16
	段取りを組んで取り組む力 課題を見つける力 行書の学習	蘭亭序を臨書して学びながら、行書の基本を身に着けていく。		○		○	丁寧に手本を読み解くことと、文字の構造から臨書すること。					
3 学 期	段取りを組んで取り組む力 課題を見つける力 仮名の学習	日本の仮名の古典を学びながら、変体仮名、連綿の構造などを知る。日本の美の一つに挙げられる仮名に親しむ。				○	漢字を字源とする仮名の特徴を知っていく。例として「あ」の字源を学ぶ。					20
	段取りを組んで取り組む力 課題を見つける力 漢字かな交じりの学習	漢字かな交じりの書で創作の基本を学ぶ。	○			○	各自で好きな文章などを作品に作り上げる。言葉の面白さや美しさを表現する。					7
												合 計

